

「津島市子ども読書活動推進計画（第三次）」（案）に関するパブリックコメントの結果

1 概要

- (1) 意見募集期間 平成 28 年 6 月 15 日（水）～7 月 15 日（金）まで
- (2) 公開方法 市ホームページ、社会教育課、神守支所、神島田連絡所、市立図書館（分室を含む。）において閲覧による公開
- (3) 提出方法 社会教育課へ直接又は郵送、F A X、電子メール、神守支所、神島田連絡所、市立図書館（分室を含む。）に設置した投函箱
- (4) 提出意見 12 件（7 人）

2 パブリックコメントの「意見（要約）」と「市の考え方」

No	提出いただいた意見（要約）	市の考え方
1	<p>乳児の4か月検診の時の絵本配布と読み聞かせはとてもいい活動であり継続してほしい。それ以外の検診や予防接種など待ち時間があるので、そのような時間にも読み聞かせを行うと良いと思う。</p>	<p>現在、読み聞かせボランティア（以下「ボランティア」という。）の方の協力による健康診査時等における読み聞かせ事業は4か月児健康診査時に限定されておりますが、その他の健康診査時等においても事業拡充していくよう関係各課及びボランティアの方と実施に向け検討してまいります。</p>
2	<p>図書館まで距離が遠いと、「子どもだけで図書館に行ってきたい」とは言えない。親と一緒に車で行くとなると、なかなか時間が取れず図書館がどんどん遠い場所になってしまう。</p> <p>夏休みとかに、小学校から図書館というようなバスを走らせてみたらどうか。午前と午後、学校から出て帰るも学校に帰ってくるようなバスがあれば、子ども達は図書館に行きやすくなるのではないか。ふれあいバスがあるが、乗り換えしないといけないとなると、図書館にはたどり着けないと思う。親としては、直行バスがあると助かる。</p>	<p>各学校から市立図書館への送迎バス運行に関しては、バス・運転手の確保及び運行経費、子どもの安全確保等の問題から実施は非常に難しいため、特に市立図書館（分室を含む。）まで遠距離の地域におきましては、各家庭やボランティアの方の理解・協力を得ながら、地域で読書活動を楽しめる環境づくりを検討してまいります。</p>

	<p>4 か月健診でブックスタートを行っているが、絵本にはさんでいる資料のチラシのみで毎年年間 400 枚ほど図書館で印刷してもらい保健センターへ持参している。</p> <p>それもボランティアの仕事の一環だと思っているが、本来は保健師さんと図書館員さんが連絡を取り合ってプロの目で子どもにより良い資料を用意したほうがいいのではないかと思う。</p> <p>また図書館利用促進のために、入学時の「としょかんへいこう」にプラスして1歳半健診などでも読書推進に関する資料をすべての保護者に向けて配布するとよいと思う。</p>	<p>子どもが本や読書活動を身に付け、定着させていくためには、各家庭での保護者等の役割が重要であると考えます。</p> <p>学校行事・集会等の様々な機会や広報・情報紙の配布機会を的確に捉え、保護者等へ家庭での読書活動の重要性や必要性を周知してまいります。</p> <p>また、配布物については、図書館司書等の有資格者、専門職員によって掲載内容を協議して、適切な内容で分かりやすいものとします。</p>
3	<p>小さい子どもは自分で図書館に行けない。図書館は大人に連れて行ってもらう場所になるので保護者への働きかけを強化していただきたい。</p> <p>読み聞かせを実施していて感じるのが、アンケートの数字にも表れていた。</p> <p>図書館がどこにあるのか分からない、家でゴロゴロしていたい、本を読むのはめんどくさいなど。しかし、小・中ともに9割以上が本を読むことは大切と言っている。</p> <p>スマホばかりにのめり込んで本を読まないのは、大人の反映だと思う。大人が変われば子どもも変わる。大人の読書活動推進が早道ではと考える。</p>	
	<p>子どもに読書をさせることは大切であるが、大人が読書を楽しむ様子を見せれば子どもが受動的ではなく能動的に読書に向かうと思う。大人が読書をする姿勢を市が働きかけてほしい。</p> <p>例えば、中高生や大人向けのものや和室を使った朗読会は楽しめるのではないか。</p>	

4	<p>地元の小学校で毎週水曜日の朝 10 分間と、それ以外に年 3 回、時間を長くとっていただき読み聞かせボランティアとして活動しているが、他の小学校では、朝だけとか、ボランティアによる読み聞かせがないというところもあると聞いたため、小学校間でも読み聞かせボランティアの交流を行ってみたいらどうか。</p> <p>私たちの現在のメンバーには、「他校でやっても大丈夫」というものもある。小学生が本に興味を持つきっかけが増えればと思う。</p>	<p>将来を担う地域の子どもたちのために、読み聞かせや学校図書室運営などに日々精力的な活動されている多くのボランティアの方々は大変貴重な存在であります。</p> <p>そのボランティアの方々が、より効果的で充実した活動を行っていただけるよう、今後、会合の場の設定（連絡会、情報交換会等）や組織づくりをボランティアの方々のご理解、ご協力を得ながら行ってまいります。</p>
	<p>6 ページ「①市立図書館における各種事業の充実」で、「一層の充実を図るよう企画」とあるが、回数を増やすのか、内容をもっと吟味して読み聞かせを行うのか、具体的な相談がこれからあるのか。ボランティアの高齢化もあり回数を増やしたくてもなかなか現状では難しい。</p>	<p>その会合の場において、日頃の問題点や課題、各種事業内容の検討、ボランティア育成等の子ども読書活動推進における総合的な協議を行っていきたいと考えております。</p>
	<p>読み聞かせボランティア活動では確かなニーズを感じているが、読み聞かせに毎回来ていただいている本が好きなお母さんに新規ボランティアとしての参加をお声掛けしていますが、なかなか活動していただけるまでには至っていない。そこで、「一層の充実を図る」ため今後、新規のボランティアさんを発掘する定期的なボランティア養成講座の開催をしていただきたい。</p> <p>本来ならば既存ボランティアのためのスキルアップ講座も開催してほしいですが、各々が自己研鑽することでボランティアを続けさせてもらっている状態である。</p>	
	<p>おはなし会などはボランティアが主体となると思われるが、市としてボランティアを養成する計画を立てるとよいと思う。地域ボランティアの裾野を広げるためにも様々な勉強会や講演を希望する。</p>	
	<p>小学校において読み聞かせボランティアを行っているが、ボランティアの人材不足という悩みがある。</p> <p>また、市内で活動されている他のボランティアの方と年 1 回ほど交流会があると情報交換もできてよい。市で横のつながりを持てるよう計画していただきたい。</p>	

5	<p>津島市が「子ども読書活動推進」という計画を行っていること（策定）を知らなかった。もっと、周知をされた方がよいと思う。</p>	<p>今後、市ホームページや実際の配布・設置を始め、様々な機会や手段を活用して計画の周知に努めてまいります。</p>
6	<p>中学校図書室を一般に開放することはできないか。安全面の観点からは大変難しいと思うが、中学校の図書室ボランティアに通うようになって、学校図書室の充実ぶりに驚いた。新刊図書がずらりと並んでおり公共図書館で予約の本も待たずに読むことができる。</p> <p>徒歩圏住民も多く、週一度でも十分なので多くの方に中学校を見ていただくのは生徒のためにもなると思う。</p>	<p>学校図書室の不特定の一般開放（一般公衆利用）については、学校図書館法の規定等に基づき判断されますが、施設管理、防犯上の問題等もあり、現在、一般公衆利用は実施しておりませんが、「地域に開かれた学校図書室」として利活用していけるよう調査、研究してまいります。</p>
7	<p>普段、地元小中学校において図書ボランティアを行っているが、学校の図書室が一番身近な本を手取る場所であるのに、行く時間がないということでは読書の愉しさを知ることができない。</p> <p>昨年度の地元中学校は、実質一日5分しか開館しておらず、案の定、図書室利用者は1日に10人にも満たない日が多かった。</p> <p>今年度は開館日が増え、実質10分間の開館となったが、図書室のある棟と違う棟の生徒は全くと言っていいほど利用していないし、たかが10分でゆっくり本を選べるであろうか。</p> <p>読書、図書室の楽しみには、「本を選ぶ」という行為も重要である。できることなら、週1回でいいので放課後30分くらい開館したいと思っているが、学校としてはそれを許可することは難しいようである。地元中学校の図書室には良い本、新しい本がたくさんあるのに子どもたちに手に取られ、読まれることもなく古びていくのはとても残念である。他の学校での開館時間やどのように開館しているのか気になった。</p>	<p>各小中学校の学校図書室につきましては、各学校の「学校経営案」や指導方針に基づき運営されております。</p> <p>この度の第三次計画策定に併せて実施したアンケートでは中学生の学校図書室の利用が少ないことが判明し、また、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」では、学校図書室の利活用促進を進める必要があることが記述されていることから、今後、各学校の事情を考慮しつつ、利用しやすい学校図書室となるよう各校と協議・検討してまいります。</p>

8	<p>(14 ページ ④において)「現在、司書教諭については学校図書館法に基づいて市内の全小中学校に配置されています。」とあるが、「司書教諭」というのは図書室の管理運営専門の先生のことか。</p> <p>地元小中学校では図書室を任されている先生はいるが、クラス、教科担任をお持ちで、図書室の管理運営は週 1 回いらっしゃる図書室補助員の先生が一手に引き受けていると認識している。</p>	<p>「司書教諭」と「学校司書(学校図書室専門事務職員を示し、当市では『学校図書室補助員』の職名で配置)」では、設置根拠、資格要件等が異なります。</p> <p>現在当市では、司書教諭を補助・支援するため、学校図書室補助員が従事しておりますが、14 ページ「④学校図書室の充実を図るための人的配置等」で記述のとおり拡充に努めてまいります。</p>
9	<p>電算化・バーコード処理システムについて、「早急な整備が求められています。」とあるが、はたしてそうでしょうか。</p> <p>地元小中学校はともにバーコード化されているが、両校とも導入の際は保護者ボランティアの甚大な労力の末、現在に至っているものであり、これから導入する学校はどのような方法で、膨大な手作業を処理するのであろうか。また、その後のデータ入力管理は手間暇かかるものである。</p> <p>システムは各学校が独自で導入しているため、各学校ごとに違うという問題もある。加えて、導入から何年も経ち、パソコンのバージョンアップや老朽化の問題も出てきている。</p> <p>導入時に活躍したボランティアや先生がいないということも起こりうる。</p> <p>全学校の図書室の電算化を考えているならば、しっかりと現在導入している学校の実情やシステムを調べ、担当している先生に話を聞くべきである。そして、できるならば全学校、同じシステムに統一すれば図書室補助員の先生や、図書室の管理を任されている先生も戸惑うことが減るのではないか。</p>	<p>市内全小中学校における学校図書室の電算化整備、各学校及び市立図書館等とのネットワーク化等については、導入の際に各学校等の実情や要望、管理・運営面、将来性等を十分考慮して配備してまいります。</p>

10	<p>全体に感じたことですが、小中学生のアンケートはあっても実際子どもの読書を推進する活動をしている先生方、司書、ボランティアの声を感じられない。この計画書は実際活動している方々の手元に届いているのであろうか。市民に広く意見を乞う前に耳を傾ける声があるのではないか。</p>	<p>第三次計画案の作成に当たりましては、第二次計画での進捗状況や第三次計画案についての意見等を各小中学校（図書室担当職員等）と市立図書館（児童書担当職員等）、子育て支援課等の関係各課へ行き、回答結果を反映させた内容となっております。</p> <p>今後、パブリックコメント以外にも計画案作成段階からボランティアの方々等の意見を伺うよう対応してまいります。</p>
11	<p>本を自らの手で選ぶことは重要であるが、学校のインターネットを使い、図書館の本を貸出予約してみてもどうか。</p> <p>図書館は津島駅などに返却ボックスを設置しているので、回収の際に学校にも立ち寄り、児童・生徒が予約した本を届けたりすればよいと思う。</p>	<p>児童・生徒へはパソコンを用いた学習時間において市立図書館等の蔵書検索及び貸出予約等について周知・学習指導をしてまいります。が、実際の予約、貸出及び返却につきましては、学校への団体貸出制度を活用して対応してまいります。</p>
12	<p>現在では、教科書までデジタル化してパッド（タブレット端末）によるペーパーレス時代が教育の場でも起ころうとしている。</p> <p>読書の基本はアナログ的な感覚だと思うが、早期にデジタル化、ペーパーレス化を想定し施策を考えておくことが必要と考える。</p>	<p>9 ページ「③学校図書室の活用促進」において、『普及の進む電子書籍等について、今後の読書環境への影響に留意しながら利点をうまく活用して、』及び『「実際にページをめくり楽しむ本の面白さ」や』と追記します。</p>